

2007年5月7日

ライオンズクラブ国際協会 330-A地区  
各クラブ会長 殿

ライオンズクラブ国際協会  
330-A地区  
環境保全委員会  
委員長 L 風間 昭

### 330-A地区環境保全委員会報告の送付について

拝啓 新緑の候 貴ライオンにおかれましては益々ご清栄にてご活躍のこととお慶び申し上げます。また貴クラブにおかれましては、平素よりライオンズ活動にご尽力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、別紙の通り330-A地区 環境保全委員会報告を送らせていただきます。

ご高覧いただきますとともに、クラブメンバーの皆様全員へご配布いただきますよう、何とぞよろしくお願ひ申し上げます。

敬具

## 330-A 地区 環境保全委員会報告

環境保全委員会委員長  
L. 風間 昭

第 51 回年次大会で承認された「330-A 地区 環境憲章」及び 330-A 地区 環境問題アクティビティプログラム 3 カ年計画について 2007 年 4 月 21 日（土）に開催された第 53 回年次大会分科会 及び 代議員総会に於いて、下記の 3 点が決議・承認された。

- ①「環境憲章」の一部訂正
- ②「3 カ年計画」の一部訂正と「5 カ年計画」に延長
- ③委員会の常設化と委員の一部留任

以上、活動の継続性の重要性から満場一致で可決・承認された。

なお、330-A 地区 第 53 回年次大会を前に 2006 年 12 月～2007 年 2 月にかけて実施されたアンケート集計の一部とまとめは別紙の通り、330-A 地区の中でも温度差が著しく、又 環境についての認識度にも幅があると共に低いことがわかった。

今後、常設の環境保全委員会として委員の一部留任にともない、適切な情報と専門的なメンバーのリーダーの養成をより推進して、各クラブに随時広報できる体制、システムをつくることが急務であるとする。

◎ 「330-A 地区 環境憲章」

『ライオンズクラブ国際協会 330-A 地区は、われわれの子孫への未来を継続するため、ライオンズの奉仕の精神に則り、各クラブメンバーが手をつなぎ、地球環境保全活動を推進する。』

◎ 「330-A 地区 環境問題プログラム」 3年目 実施要項一部変更

☆ 3年目 (2007 / 7 ~ 2008 / 6)

- ①環境セミナーの実施
- ②環境リーダー養成講座の実施
- ③環境リーダー養成中級講座（仮称）の実施
- ③荒川クリーン作戦活動
- ④多摩川クリーン作戦の準備検討
- ⑤植樹活動の実施
- ⑥環境憲章の徹底
- ⑦環境活動家の把握とその準備の検討
- ⑧クラブ・ゾーン等の要望に応えられる環境講師団の紹介体制の準備
- ⑨その他 その期の環境委員会決定の実施

## [説明]

現在、地球環境は地球温暖化、エネルギー問題、資源、廃棄物対策などすでに様々な問題に直面しており、今後、持続可能な社会を築くためには地球環境との相互バランスが不可欠であり、すべての生命と環境全体がしっかりと結びついていく必要がある。

例えば、木を植える前に木を切ることを抑えるなど、環境行動の意味を考え一人で行動するのではなく皆で理解し行動する。

戦争、貧富格差、飢餓、差別、教育、自然破壊、人口問題など、人類の未来を考慮することはあらゆる現象に配慮することに他ならず、世界の人々の間における相互理解の精神を培い、先進国、日本、東京 330-A 地区に在することの意味を自覚し、真摯に環境問題に取りくまなくてはならない。

社会的貢献と環境の向上とを促進するために、実行し、且つ、善良な市民として、地球の環境意識向上および公德心の向上に積極的に関心を示し、国際的な環境保全を維持するためにわれわれの力をあわせ、環境と社会の両立を実現していかなくてはならない。

奉仕の心を持つすべてのライオンが、個人の経済的報酬なしに環境保全の社会奉仕を促進するために、ライオンズクラブ 330-A 地区の機構を用いることを決意し、これらの目的を達成するために、われわれの努力を結集することとした。

# ライオンズクラブにおける環境保全の意識は低い

－アンケートのまとめ－

330-A地区環境保全委員会

今、地球は環境保全を考え、対策を講じないと30年以内に滅亡するといわれ、実際に最近の人類の経済活動によってもたらされる海面上昇、気候温暖化など、環境異常などが身近に体感され始めている。

そこで、330-A地区環境保全委員会が2006年12月～2007年1月にかけて、改めて地区内各クラブの環境保全についての意識を探るべく実施した330-A地区内のライオンズクラブに対するアンケートの集計結果をまとめた結果が次の通りとなった。

詳細な集計結果は別紙添付した通りなので、概況を考察してみた。

## 1. 環境保全についての意識は極めて低い

a アンケートに回答をよせたクラブは全体の32%しかなかった。

330-A地区207クラブのうち67クラブしか回答がなく、そして、6～10Rでは33%しか回答がなかったのに対して、16～20Rでは66%が回答をよせた。都市部中心ほど環境保全意識は薄い。

b 環境保全に対する知識が偏っている。

意識が地球温暖化防止、森林保存、水質浄化等に集中（回答率50%以上）し、それらと同様に重要な課題である生物多様性問題、貧困格差解消等（回答率30%以下）については環境保全問題とは考えていない現実がある。

## 2. 環境保全に対するアクティビティの実施率は低い。

毎年実施しているクラブは28クラブで回答数の42%になる。環境保全関係のアクティビティをしていない理由は予算がない、人手がない、方法がわからない、他にやりたいアクティビティがあるなどで35%にもなる。

## 3. 環境保全委員会の実施してきたことに対する認知度が低い。

a ライオンズクラブにおける単年度制の弊害が影響している。

環境保全委員会が毎年実施しているリーダー養成講座を知らないクラブ（24%）、環  
リーダーの活動内容を知らないクラブ（73%）、環境リーダーがいないクラブ（76%）  
といった数値はライオンズクラブにおける単年度制に影響されていると考えられる。

b 環境保全に対する危機感が乏しい。

環境問題をクラブ内で討議したことがないクラブが40%もある。それでも植樹活動が  
CO<sub>2</sub>削減に貢献していることを知らないクラブは4%しかなかった。

c 河川浄化運動は都市部では難しい。

河川浄化について何らかの活動をしていないクラブは82%もあったが、これは河川が  
地域社会の範囲内でないことが大きな原因であるようだ。

#### 4. 回答より見たマイナス点

- a 永続的な環境対策が維持できていない。  
植樹（桜）や河川清掃が単年度で終わる傾向があるばかりでなく、一度植樹されたものの維持管理が難しい。（文章回答より）
- b ライオンズクラブの衰退が環境問題の解決を阻止している。  
文章回答に見られるもので、メンバーの減少による労力の不足、事業費予算の不足、継続実施ができない、継続実施が不可能、地域社会との連携不足など会員減少傾向による障害が多い。
- c 地区委員会にアクティビティの方法を頼る傾向が見られる。  
実施の具体例が知りたい、方法を教えてほしい、他クラブの資料がほしい、植樹のできる場所を知りたい等の要望が見られる。

#### 5. アンケートから地区委員会の在り方を考え直さねばならない。

- a 現状では委員会活動が結果を生んでいない。  
アンケートの状況から見て、環境保全問題はどのような形をとったにせよ、単年度毎の施策実施では、実効性に欠ける。少なくとも樹木が一年で成長しきれないわけではないので、それに合わせると委員会活動は最低でも5年、本来なら半永久的に永続性を持った活動をししないと、地域社会から共感を得られるライオンズクラブの活動にはならない。
- b メンバーの環境保全に対する意識が極めて薄い。  
環境問題が人類の将来を握っていることを考えて、最低でもメンバー全員、さらにはライオンズクラブが芯になって広く社会にその考えを敷衍するぐらいの取り組みが必要である。

#### 6. 結論

環境保全の重要性は、地球滅亡、人類滅亡につながっていることをもっと地域社会にPRしなければならない。それにはライオンズクラブ内における認識を改める必要がある。そして、そのためにキャビネットの委員会活動を中心にまず各单位クラブを啓蒙し、歴代ガバナーの方針の一つに取り入れると同時に委員会も長期計画を立てて実行しなければならない。

今後のライオンズクラブ活動の再重点・長期目標とすることを提案する。

以上。

## 環境保全についてのアンケートの集計 (2007. 3)

アンケート回収件数  
全207クラブのうち

回答クラブ数

1～5 R	6～10R	11～15R	16～20R	総計
19 C	12 C	14 C	22 C	67 C
(28%)	(18%)	(21%)	(33%)	(100%)
19/53 (36%)	18/55 (33%)	21/49 (43%)	33/50 (66%)	67/207 (32%)

A. 環境保全についてお聞きします。

(1) 環境保全という言葉にあてはまると考えられることを、次の中からいくつでも結構ですからチェックしてください。

	チェック数	
<input type="checkbox"/> 地球温暖化防止	56	84%
<input type="checkbox"/> 森林破壊防止	54	81%
<input type="checkbox"/> 河川等の水質浄化	53	79%
<input type="checkbox"/> 植樹活動	52	78%
<input type="checkbox"/> 樹木の保存・保護	52	78%
<input type="checkbox"/> オゾン層破壊防止	44	66%
<input type="checkbox"/> 廃棄物対策	42	63%
<input type="checkbox"/> 海洋汚染防止	42	63%
<input type="checkbox"/> ごみ(ポイ)捨て禁止運動	38	57%
<input type="checkbox"/> 異常気象対策	38	57%
<input type="checkbox"/> 土壌汚染防止	38	57%
<input type="checkbox"/> 道路・広場等の清掃	36	54%
<input type="checkbox"/> 酸性雨問題	35	52%
<input type="checkbox"/> 砂漠化防止	35	52%
<input type="checkbox"/> エネルギー対策	32	48%
<input type="checkbox"/> 環境ホルモン対策	24	36%
<input type="checkbox"/> 飲料水と食料問題	22	33%
<input type="checkbox"/> 禁煙推進運動	18	27%
<input type="checkbox"/> 生物多様性問題	15	22%
<input type="checkbox"/> 貧困格差解消	4	6%
<input type="checkbox"/> その他にありましたら具体的にお書きください。		